

裏文字

能村 研三

句集『神鵲』刊行

五月二十四日、登四郎の命日を發行日として句集『神鵲』を上梓した。『催花の雷』に続く第八句集で平成二十五年から六年間の作品三百五十八句を収めた。

昨年二月、三週間の糖尿病の教育入院の際、たいした治療項目がなかったもので、病院で句集をまとめる作業に着手した。ほぼこの三週間近くの入院のあいだにこれまでの句を全部パソコンに打ち込むことが出来た。ちょうど入院中にコロナの感染が日本でも広がり始め、不安な日々が続いた。当初、その秋の「沖」の創刊五十周年の記念会までに作ろうという目標を立てていたが、句集原稿を自選していく内に、秋の記念大会の開催の有無が不透明になってきたこともあり、句集をまとめる作業を一時中断してしまった。

ようやく句集原稿をまとめて東京四季出版に持ち込んだものの、発行時期の目標が失われたこともあり、初校のまま時間を過ごすこととなっ

た。

年が明け、ようやく初校、再校の作業を進め登四郎の命日を發行日にするべく出版社と打ち合わせを行った。

幸い東京四季出版の西井社長の計らいで装丁は間村俊一さんに担当していただいたことも望外の喜びであった。

間村さんは俳句も作る方で自らも句集を刊行されている。これまでに『新校本 宮沢賢治全集』『新編 中原中也全集』『塚本邦雄全集』などを装丁されている。句集の装丁では『攝津幸彦選集』『齋藤愼爾全句集』なども手掛けておられる方で、シンプルでありながらも存在感のある装丁である。

装丁のすばらしさはさて置き、句集の中身の方はいかなる評価があるかわからず、気になるところであるが、忙しい中、早速多くの方から反響をいただいていることは嬉しいことである。

裏文字

能村 研三

句集『神鵲』刊行

五月二十四日、登四郎の命日を發行日として句集『神鵲』を上梓した。『催花の雷』に続く第八句集で平成二十五年から六年間の作品三百五十八句を収めた。

昨年二月、三週間の糖尿病の教育入院の際、たいした治療項目がなかったもので、病院で句集をまとめる作業に着手した。ほぼこの三週間近くの入院のあいだにこれまでの句を全部パソコンに打ち込むことが出来た。ちょうど入院中にコロナの感染が日本でも広がり始め、不安な日々が続いた。当初、その秋の「沖」の創刊五十周年の記念会までに作ろうという目標を立てていたが、句集原稿を自選していく内に、秋の記念大会の開催の有無が不透明になってきたこともあり、句集をまとめる作業を一時中断してしまった。

ようやく句集原稿をまとめて東京四季出版に持ち込んだものの、発行時期の目標が失われたこともあり、初校のまま時間を過ごすこととなっ

た。

年が明け、ようやく初校、再校の作業を進め登四郎の命日を發行日にするべく出版社と打ち合わせを行った。

幸い東京四季出版の西井社長の計らいで装丁は間村俊一さんに担当していただいたことも望外の喜びであった。

間村さんは俳句も作る方で自らも句集を刊行されている。これまでに『新校本 宮沢賢治全集』『新編 中原中也全集』『塚本邦雄全集』などを装丁されている。句集の装丁では『攝津幸彦選集』『齋藤愼爾全句集』なども手掛けておられる方で、シンプルでありながらも存在感のある装丁である。

装丁のすばらしさはさて置き、句集の中身の方はいかなる評価があるかわからず、気になるところであるが、忙しい中、早速多くの方から反響をいただいていることは嬉しいことである。

船底を灯すがごとく梅雨の部屋

裏文字の透ける聖書や蔦紅葉

昏れどきの川照つよし袋掛

雨粒のにはかに大端午の日

莢透けて莢ゑんどうの子沢山

海光や新玉葱の擬宝珠ぶり

六枚の雨戸走らす子供の日

能面は耳もたざりし青葉闇

まくなぎや抱へ込みたる些事大事

倒れ苗よみがへらせる一雨あり

能村 研三